



# Press Release

## 「平成 22 年度 生活保障に関する調査」まとまる

(財) 生命保険文化センター (理事長・村井博美) では、「平成 22 年度 生活保障に関する調査」をまとめました。この調査は、人々の生活保障意識や生命保険の加入状況をはじめとした生活保障の準備状況を時系列で把握することを目的に、3 年ごとに実施しています。

前回 (平成 19 年度) 調査以降、人々の生活保障準備を取り巻く環境は大きく変化し、調査結果にも意識・実態の両面で変化が現れてきております。

今回の主な調査結果は以下のとおりです。

※ ( ) 内のページ数は本プレスリリースの詳細ページ

### I. 生活保障に対する不安意識の高まり

- ① 生活保障に対する不安意識は依然増加傾向が続く …………… (P 2)
- ② 不安内容は公的保障の水準などの経済的不安が上位に …………… (P 3)

### II. 進まぬ自助努力準備、低い充足感

- ① 不安意識が高まる一方で、自助努力による準備割合は足踏み状態 …………… (P 4)
- ② 疾病入院給付金日額の希望額は男性が 12,300 円、女性が 10,600 円 …………… (P 5)
- ③ ゆとりある老後生活費は 1 ヶ月あたり 36.6 万円で 1.7 万円の減少 …………… (P 6)
- ④ 死亡保険金の希望額は男性が 3,566 万円、女性が 1,720 万円 …………… (P 7)
- ⑤ 生活保障準備に対して「充足感なし」は依然として 6 ~ 7 割 …………… (P 8)

### III. 増加傾向が続く自助努力意識と追加準備意向

- ① 生活保障に対する充足感が依然として低い中、「生活を切りつめても私的準備必要」が増加 …………… (P 9)
- ② 生活保障準備への自助努力意識が高まるとともに、生活設計を行っている割合が増加 …………… (P10)
- ③ 生活保障に対して「準備意向あり」が医療・老後・介護保障で増加 …………… (P11)

### IV. 生命保険商品に対する意向は安定志向

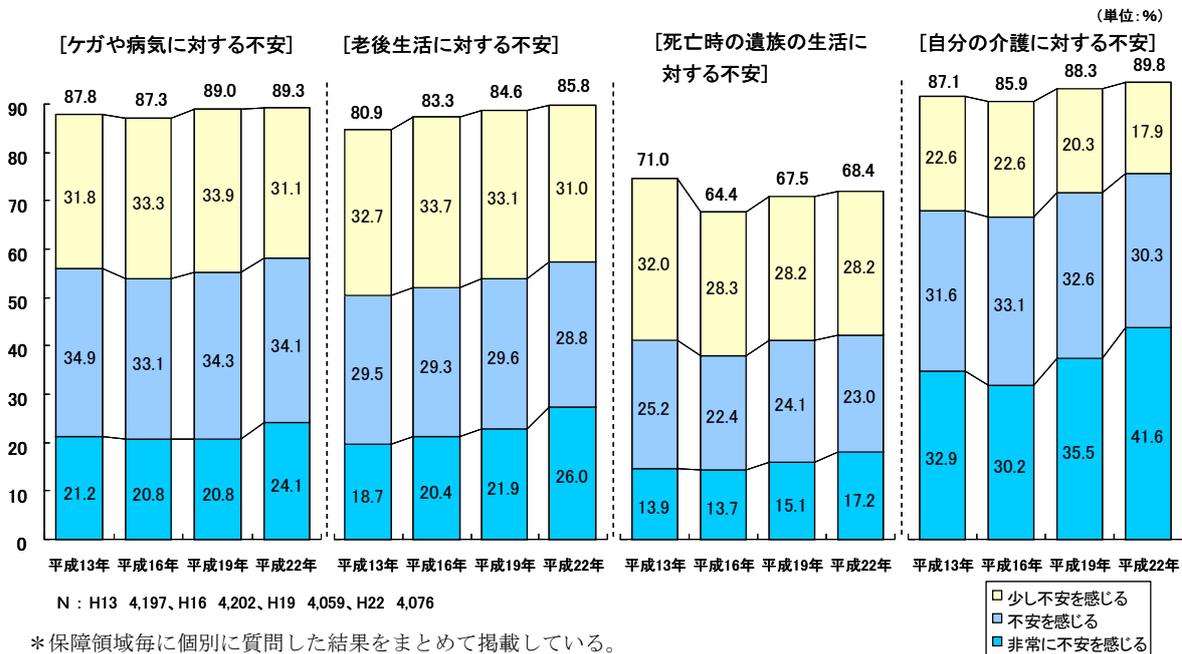
- ① 「定額型商品志向」が約 8 割、「広範保障型商品志向」が約 7 割 …………… (P12)

I. 生活保障に対する不安意識の高まり

①生活保障に対する不安意識は依然増加傾向が続く

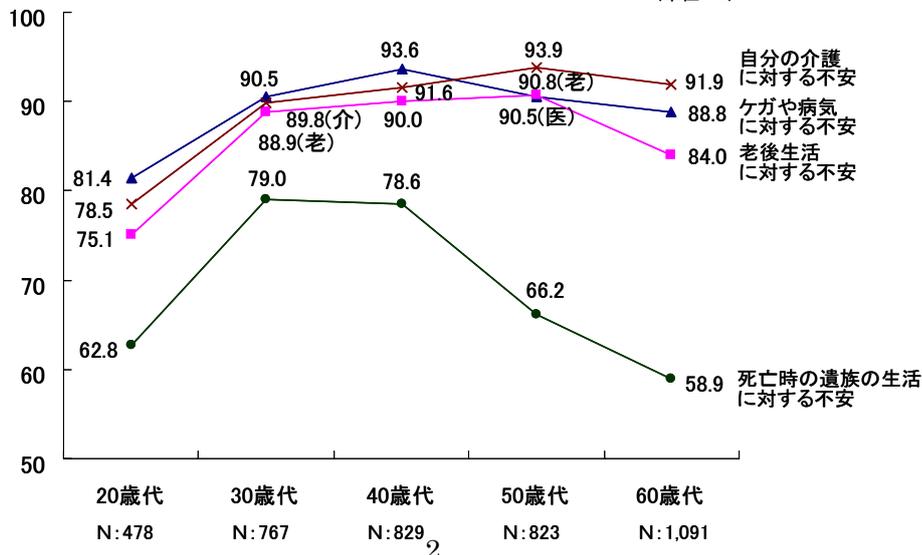
医療、老後、死亡、介護の4つの保障領域に対して不安があるとした人の割合をみると、「自分の介護に対する不安」が89.8%と最も高く、次いで「ケガや病気に対する不安」(89.3%)、「老後生活に対する不安」(85.8%)、「死亡時の遺族の生活に対する不安」(68.4%)の順となっている。いずれの保障領域も概ね増加傾向にあるが、特に「非常に不安を感じる」の増加幅が大きい。

図表1 保障領域別の不安意識（「不安感あり」の割合）



保障領域別の不安意識を年齢別にみると、「ケガや病気に対する不安」は40歳代、「老後生活に対する不安」は30～50歳代、「死亡時の遺族の生活に対する不安」は30～40歳代、「自分の介護に対する不安」は50～60歳代でそれぞれ高くなっている。

図表2 保障領域別の不安意識（「不安感あり」の割合）〔年齢別〕

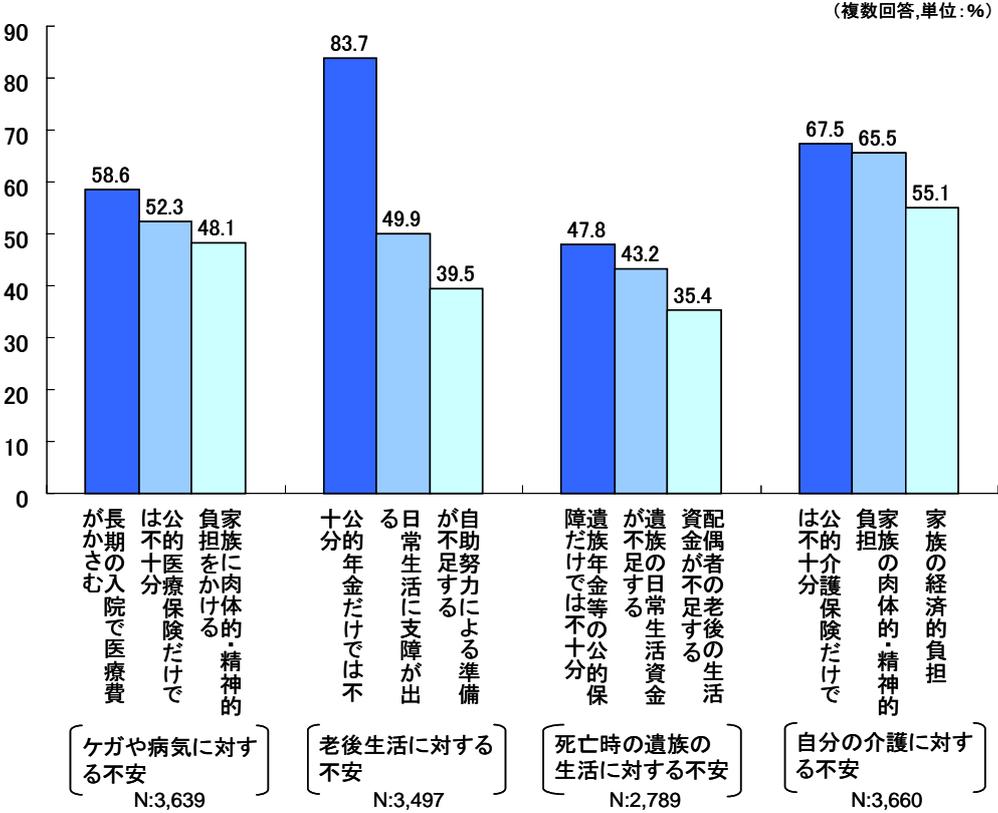


②不安内容は公的保障の水準などの経済的不安が上位に

「不安感あり」とした人の具体的な不安の内容をみると、ケガや病気に対する不安では「長期の入院で医療費がかさむ」が 58.6%と最も高い。また、老後生活に対する不安では「公的年金だけでは不十分」(83.7%)、死亡時の遺族の生活に対する不安では「遺族年金等の公的保障だけでは不十分」(47.8%)、自分の介護に対する不安では「公的介護保険だけでは不十分」(67.5%) が最も高くなっている。

いずれの保障領域も、公的保障に対する不安などの経済的な項目が上位に挙げられている。

図表3 保障領域別の不安の内容（上位3項目）



\* 保障領域毎に個別に質問した結果をまとめて掲載している。

## Ⅱ. 進まぬ自助努力準備、低い充足感

### ①不安意識が高まる一方で、自助努力による準備割合は足踏み状態

不安意識が高まるなか、自助努力による経済的準備の状況を尋ねた。

その結果、生命保険や個人年金保険、預貯金や有価証券など何らかの手段で準備している割合は、「医療保障」が82.2%で最も高く、次いで「死亡保障」70.5%、「老後保障」61.2%、「介護保障」41.0%の順となっている。

時系列でみると、「医療保障」が平成16年以降増加しているが、収入が伸び悩む中、それ以外では大きな変化はみられない。

図表4 自助努力による経済的準備

(単位:%)

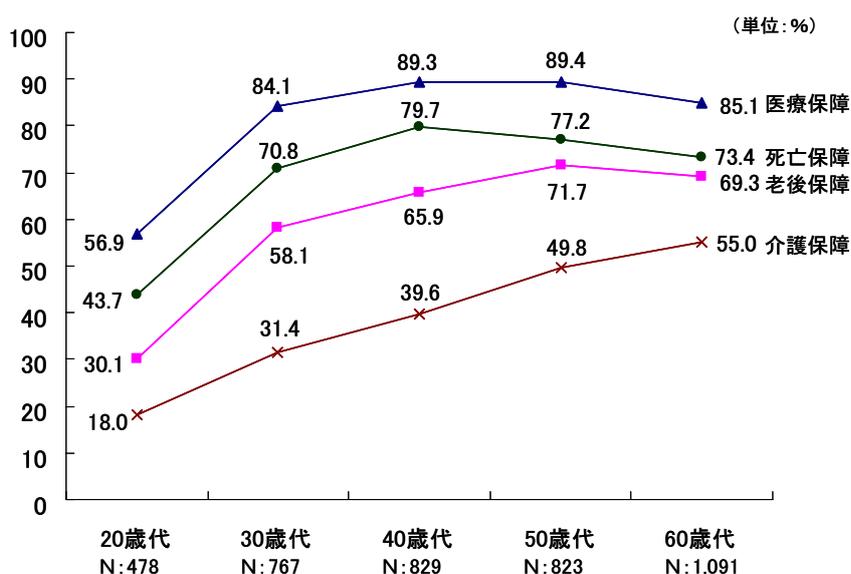
	医療保障			老後保障			死亡保障			介護保障		
	準備している	準備していない	わからない									
平成22年	82.2	15.9	1.9	61.2	36.2	2.7	70.5	26.5	3.0	41.0	55.3	3.6
平成19年	82.0	16.5	1.4	59.4	38.3	2.3	72.4	25.5	2.1	41.2	55.9	2.9
平成16年	79.3	17.2	3.5	61.5	35.6	2.9	70.8	25.6	3.6	39.2	56.3	4.5
平成13年	80.2	16.9	2.8	63.6	34.0	2.4	74.5	22.4	3.1	40.8	54.9	4.3

N: H13 4,197、H16 4,202、H19 4,059、H22 4,076

\*表中の△、▽は年次間で有意差があることを示している。  
\*保障領域毎に個別に質問した結果をまとめて掲載している。

保障領域別の準備割合を年齢別にみると、「医療保障」、「死亡保障」、「老後保障」は40～60歳代で高く、「介護保障」は50～60歳代で高くなっている。

図表5 自助努力による経済的準備（「準備している」の割合）〔年齢別〕

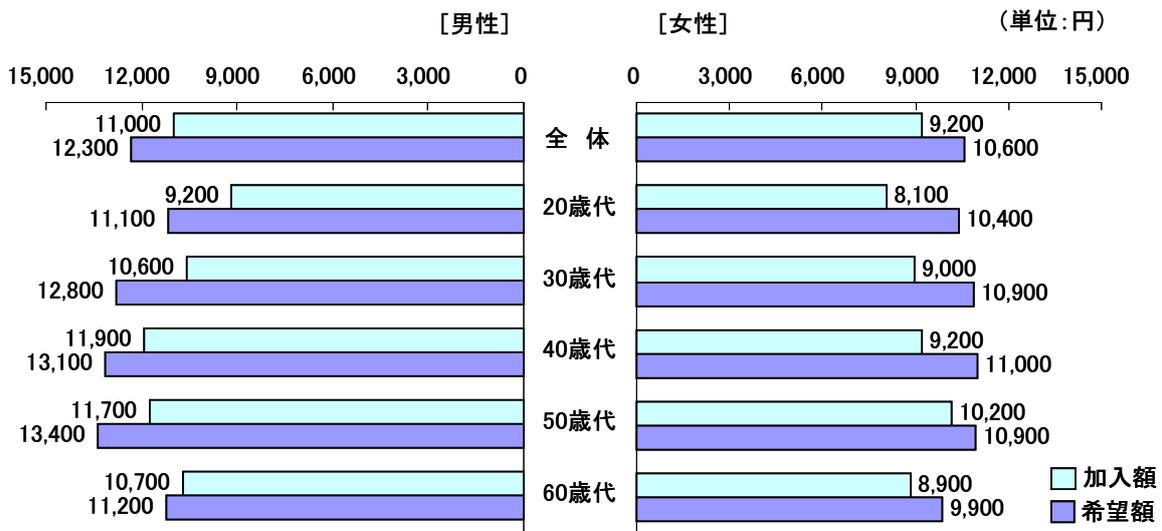


②疾病入院給付金日額の希望額は男性が12,300円、女性が10,600円

ケガや病気で入院した際の疾病入院給付金日額の希望額は、男性で12,300円、女性で10,600円と1万円を超えている。これに対して、実際の加入金額は男性で11,000円、女性で9,200円と希望額を男性で1,300円、女性で1,400円下回っている。

希望額を年齢別にみると、男性では40～50歳代で13,000円を超え高くなっている。一方、女性では30～50歳代でやや高く約11,000円となっている。

図表6 疾病入院給付金日額の加入額と希望額



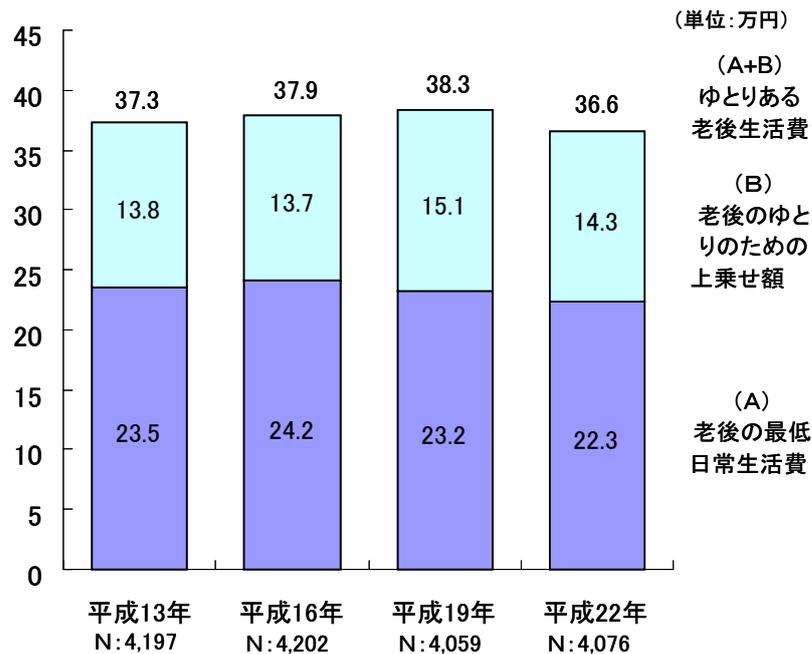
全体N : (加入額)男性1,305、女性1,643 (希望額)男性1,848、女性2,228

③ゆとりある老後生活費は1ヵ月あたり36.6万円で1.7万円の減少

老後を夫婦2人で暮らしていく上で、必要と考える最低日常生活費は月額22.3万円と前回(23.2万円)より9千円減少している。また、ゆとりのための上乗せ額は、今回14.3万円と前回(15.1万円)より8千円減少している。

“老後の最低日常生活費”に“老後のゆとりのための上乗せ額”を加えた「ゆとりある老後生活費」は月額36.6万円となり、前回(38.3万円)から1.7万円減少している。

図表7 夫婦の老後生活費の必要額(月額)

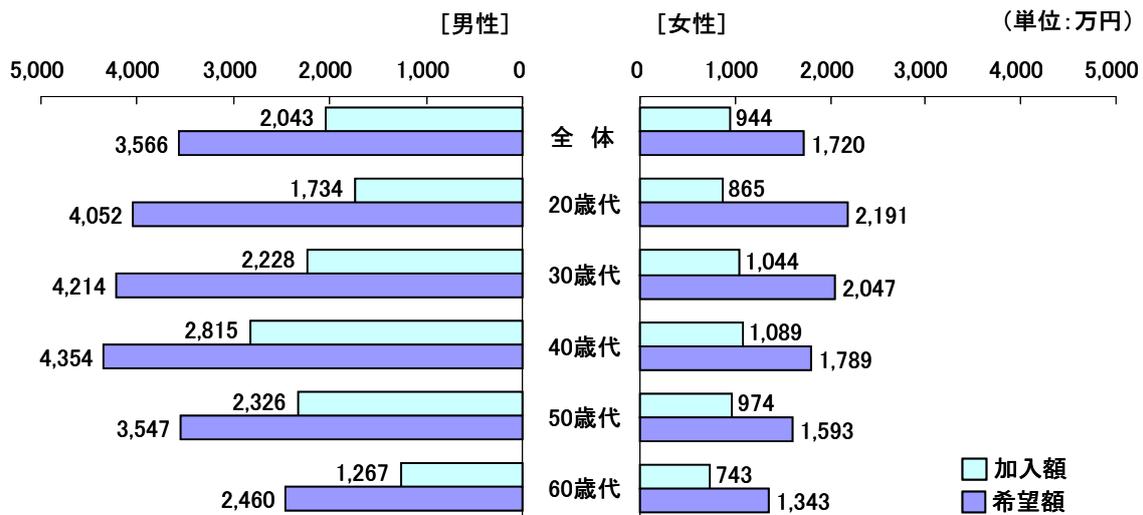


④死亡保険金の希望額は男性が3,566万円、女性が1,720万円

ケガや病気による万一の際の死亡保険金の希望額は、男性で3,566万円、女性で1,720万円となっている。これに対して、実際の加入金額は男性で2,043万円、女性で944万円と希望額を男性でおよそ1,500万円、女性でおよそ800万円下回っている。

希望額を年齢別にみると、男性では40歳代(4,354万円)、女性では20歳代(2,191万円)で最も高くなっている。

図表8 死亡保険金の加入額と希望額



全体N : (加入額)男性1,431、女性1,724 (希望額)男性1,848、女性2,228

⑤生活保障準備に対して「充足感なし」は依然として6～7割

生活保障に対する経済的準備が進展しない中、自助努力に公的保障や企業保障をあわせ  
た現在の生活保障準備に対して「充足感なし」とした割合は、医療保障が 59.8%、老後保  
障が 74.9%、死亡保障が 60.7%、介護保障が 75.5%といずれも「充足感あり」を大きく上  
回っている。

時系列でみると、「充足感なし」が医療保障で減少する一方、介護保障で増加している。

図表 9 生活保障に対する充足感

(単位:%)

	医療保障			老後保障			死亡保障			介護保障		
	充足感 あり	わから ない	充足感 なし									
平成22年	32.7	7.5	59.8	15.6	9.5	74.9	26.1	13.2	60.7	8.5	16.0	75.5
平成19年	29.2	8.1	62.7	13.9	9.6	76.5	24.6	13.2	62.2	7.8	17.6	74.6
平成16年	30.2	10.1	59.7	15.2	12.1	72.7	28.5	14.5	57.1	9.5	20.2	70.3
平成13年	31.1	9.7	59.2	16.3	11.1	72.6	29.3	13.2	57.5	9.8	18.7	71.5

N:H22 医療保障 3,999、老後保障 3,967、死亡保障 3,952、介護保障 3,928  
 N:H19 医療保障 4,001、老後保障 3,966、死亡保障 3,975、介護保障 3,943  
 N:H16 医療保障 4,055、老後保障 4,079、死亡保障 4,049、介護保障 4,015  
 N:H13 医療保障 4,078、老後保障 4,098、死亡保障 4,067、介護保障 4,016

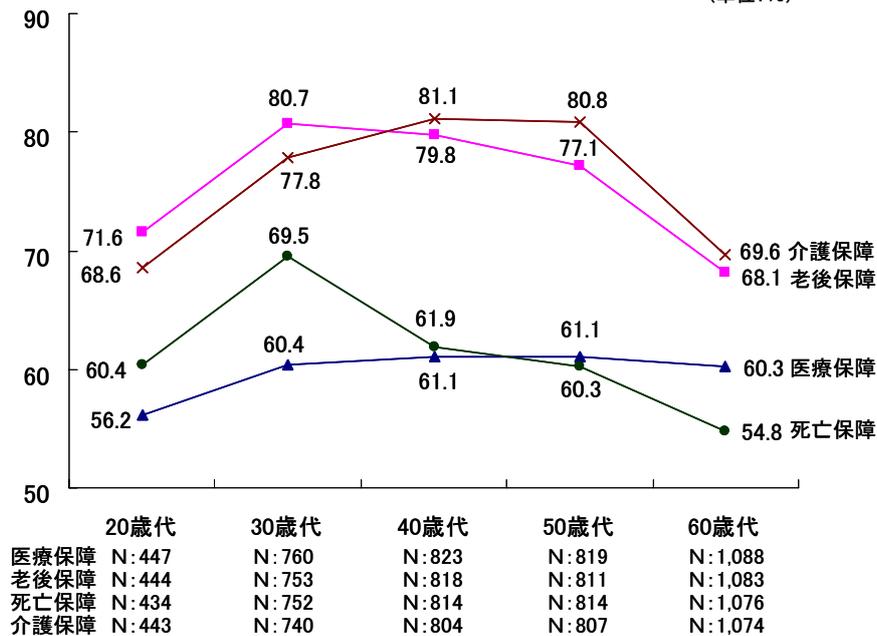
\*表中の▲、▼は年次間で有意差があることを示している。

\*保障領域毎に個別に質問した結果をまとめて掲載している。

「充足感なし」の割合を年齢別にみると、「老後保障」は 30～40 歳代、「死亡保障」は  
30 歳代、「介護保障」は 40～50 歳代で高くなっている。

図表 10 生活保障に対する充足感（「充足感なし」の割合）〔年齢別〕

(単位:%)



### Ⅲ. 増加傾向が続く自助努力意識と追加準備意向

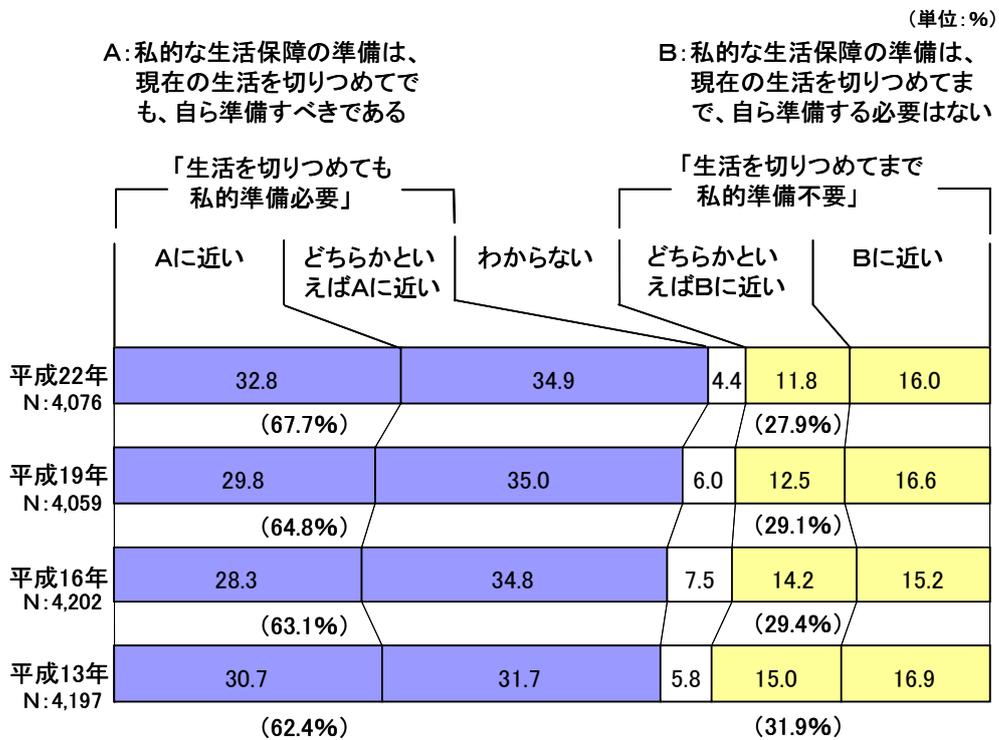
①生活保障に対する充足感が依然として低い中、「生活を切りつめても私的準備必要」が増加

自助努力による生活保障準備についての考え方として、現在の生活を切りつめてまで行う必要があるのかを尋ねた。

その結果、「生活を切りつめても私的準備必要」(67.7%)が「生活を切りつめてまで私的準備不要」(27.9%)を大きく上回っている。

前回と比較すると、「生活を切りつめても私的準備必要」が2.9ポイント増加している。

図表 11 私的な生活保障の準備に対する考え方

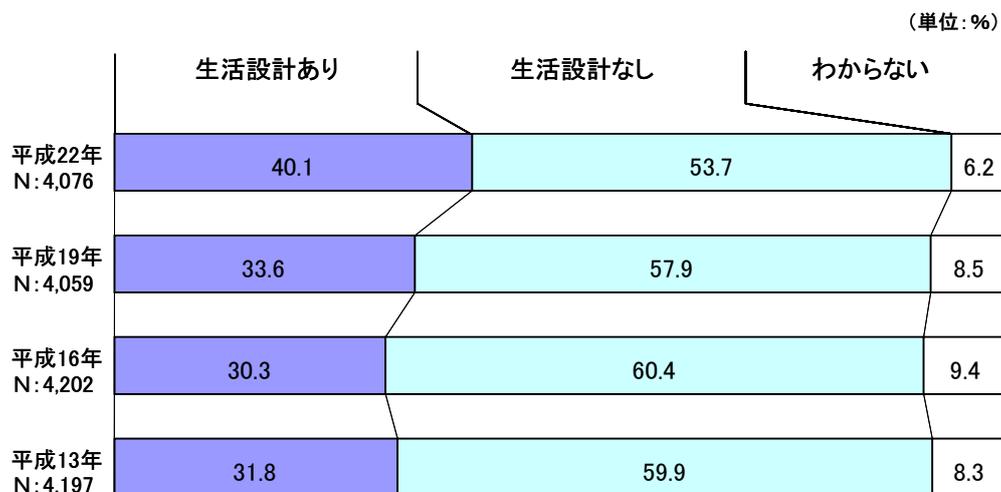


②生活保障準備への自助努力意識が高まるとともに、生活設計を行っている割合が増加

自分自身や家族の将来をどのようにしたいか、そのための経済的な準備をどうしたらよいかといった、具体的な生活設計を立てているかを尋ねた結果、「生活設計あり」は40.1%となっている。

生活保障準備への自助努力意識が高まるとともに、「生活設計あり」の割合が平成16年以降増加している。

図表 12 生活設計の有無



③生活保障に対して「準備意向あり」が医療・老後・介護保障で増加

生活保障のための経済的な準備を今後新たに行う意向があるかをみると、「準備意向あり」は老後保障（71.7%）と介護保障（72.0%）で約7割、以下、医療保障で65.3%、死亡保障で58.9%となっている。

時系列でみると、医療保障、老後保障、介護保障の「準備意向あり」が増加している。

図表 13 生活保障に対する今後の準備意向

(単位: %)

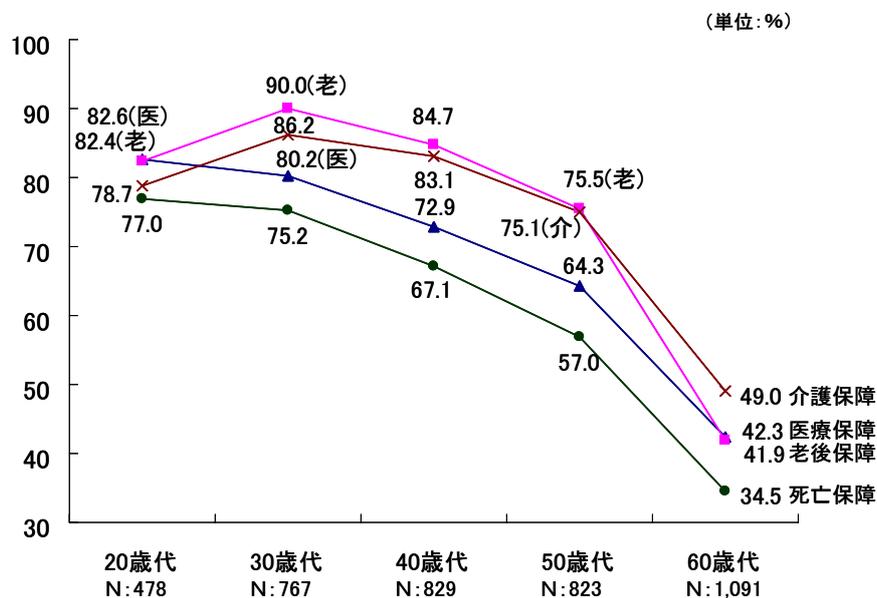
	医療保障			老後保障			死亡保障			介護保障		
	準備意向あり	準備意向なし	わからない									
平成22年	65.3	30.4	4.2	71.7	23.2	5.1	58.9	34.4	6.7	72.0	21.0	6.9
平成19年	64.5	29.3	6.1	70.8	22.4	6.9	58.9	32.7	8.4	69.5	20.5	9.9
平成16年	62.2	31.4	6.4	68.9	24.7	6.4	53.3	38.5	8.3	66.3	23.3	10.4
平成13年	63.0	30.0	7.0	69.6	23.3	7.1	55.5	35.6	8.9	68.9	21.2	9.9

N: H13 4,197、H16 4,202、H19 4,059、H22 4,076

\* 表中の△、▽は年次間で有意差があることを示している。  
\* 保障領域毎に個別に質問した結果をまとめて掲載している。

保障領域別の「準備意向あり」を年齢別にみると、「医療保障」と「死亡保障」は20～40歳代で高く、「老後保障」と「介護保障」は20～50歳代で高くなっている。

図表 14 生活保障に対する今後の準備意向（「準備意向あり」の割合）〔年齢別〕



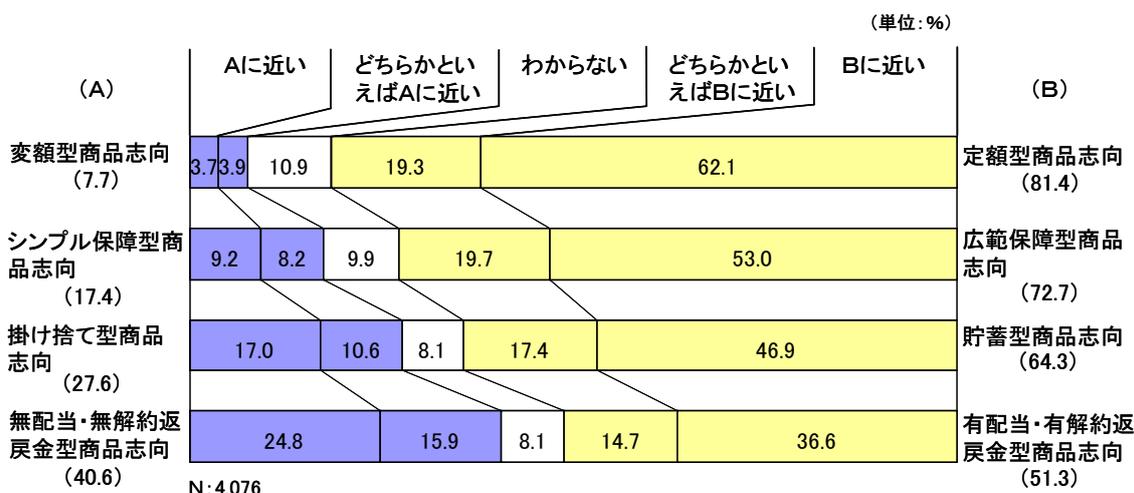
#### IV. 生命保険商品に対する意向は安定志向

① 「定額型商品志向」が約8割、「広範保障型商品志向」が約7割

仮に生命保険や個人年金保険に加入するとした場合、こういったタイプの生命保険商品に加入したいと考えているのかを尋ねた。

その結果、「定額型商品志向」(81.4%)が8割を超え、「変額型商品志向」(7.7%)を大きく上回っている。それ以外では「広範保障型商品志向」が72.7%、「貯蓄型商品志向」が64.3%、「有配当・有解約返戻金型商品志向」が51.3%と高くなっている。

図表 15 生命保険商品に対する意向



「変額型商品志向」・・・ A：運用実績により、保険金額が増加したり減少したりする生命保険に加入したい
「定額型商品志向」・・・ B：保険金額があらかじめ一定額に定められた生命保険に加入したい
「シンプル保障型商品志向」・・・ A：保障の範囲が絞られた生命保険に加入したい
「広範保障型商品志向」・・・ B：保障範囲の広い生命保険に加入したい
「掛け捨て型商品志向」・・・ A：掛け捨て（貯蓄機能のない）の生命保険に加入したい
「貯蓄型商品志向」・・・ B：貯蓄機能を兼ねた生命保険に加入したい
「無配当・無解約返戻金」・・・ A：配当金や解約返戻金がない分、保険料が安い生命保険型商品志向に加入したい
「有配当・有解約返戻金」・・・ B：配当金や解約返戻金のある生命保険に加入したい型商品志向

●調査要領

1) 調査地域	全国(400地点)
2) 調査対象	18～69歳の男女個人
3) 回収サンプル数	4,076
4) 抽出方法	層化2段無作為抽出
5) 調査方法	面接聴取法(ただし生命保険・個人年金保険加入状況部分は一部留置聴取法を併用)
6) 調査時期	平成22年4月17日～6月18日

以上